

令和4年11月11日
高齢施策担当部高齢者支援課

地域ケア会議の実施結果概要

区では、地域ケア会議について区全域単位で実施する「地域ケア推進会議」、日常生活圏域単位で実施する「地域ケア圏域会議」、地域包括支援センター担当区域単位で実施する「地域ケアセンター会議」、「地域ケア予防会議」、「地域ケア個別会議」を実施している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部書面開催等の対応を行った。

1 日常生活圏域ごとの会議（地域ケア圏域会議）

(1) 目的

地域ケアセンター会議で把握された地域課題を4つの圏域単位で協議する会議。地域の様々な関係機関で地域課題を共有し、それぞれの役割分担を整理し、地域課題の解決を目指す。

(2) 実施について

昨年度まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言等のため、書面開催で開催をしてきたが、今年度については参集で会議を実施。

(3) 各圏域の開催(予定)日・テーマ・目的・主な参加予定者・主な意見について

① 練馬圏域（10月27日開催）

【テーマ】「コロナ禍における高齢者の孤立予防について」

- ・ 地域のひとり暮らし高齢者の孤立化が、コロナ禍でより深刻化している中、どのようなことが想定され、またどのように防げるかを地域として考える。

【主な参加者】民生・児童委員、町会・老人クラブ等、地域団体

【主な意見】

- ・ コロナ禍で気軽に声をかけづらくなり、高齢者の様子がかみづらくなった。日頃からのつながりや日常的なあいさつなどの声掛けが大切だと感じた。
- ・ 地域に気軽に話ができる場、居場所、いい意味でのおせっかいが必要。地域のイベントへのお誘いなど、外に出るきっかけを地域で共有し、連携していくことが大切だと感じた。

② 光が丘圏域（10月31日開催）

【テーマ】「認知症に関すること」

- ・ 認知症というテーマについて、情報共有や支援方法の検討をすることにより、対

応スキルを高めると共に、地域ネットワークを構築させる。

【主な参加者】 民生・児童委員、社会福祉協議会（光が丘ボランティアセンター）、
保健相談所

【主な意見】

- ・ 認知症を支援する側がそれぞれの立場で関わっていただけではなく、関係機関のネットワークを構築することも重要だと感じた。
- ・ 認知症に加え、8050問題を抱えている世帯を日々目の当たりにし、親も子も双方のケアを考えていく必要があると感じた。
- ・ ネットワークの構築の仕方については、地域の中でもそれぞれの住宅環境（戸建て、賃貸の団地、分譲の団地）に応じて、実情に合わせたやり方が必要だと感じた。

③ 石神井圏域（11月28日開催予定）

【テーマ】「ひとり暮らし（身寄りのない）高齢者の終活について
～今できることを考える～」

- ・ 石神井圏域のひとり暮らし（身寄りのない）高齢者支援からできることを考える。

【主な参加者】 地域包括支援センター、民生・児童委員他

④ 大泉圏域（10月21日開催）

【テーマ】「圏域における認知症高齢者の支援」

- ・ 圏域内の認知症支援の情報共有・情報交換による関係機関の連携強化を図る。

【主な参加者】 認知症家族会、NPO地域団体、社会福祉協議会、三療師会

【主な意見】

- ・ コロナ禍で活動場所の制約がある中で、街かどケアカフェ活動の一環として場所を借りて認知症高齢者の家族会を開催することができている。地域包括支援センターの協力はありがたい。
- ・ 以前は、認知症の家族の方が切羽詰まる状況もあったが、今は様々な支援が受けられる状況だと思う。介護サービスが軌道にのると家族も落ち着く。
- ・ これからは、認知症の診断を受けたばかりで、まだサービスに繋がっていない高齢者やそのご家族を支えられる仕組みがあるとよいと思う。

2 地域包括支援センターごとの会議

(1) 地域ケアセンター会議

①目的

地域ケア個別会議と地域ケア予防会議を通じて抽出された地域課題（コロナ禍における高齢者の生活支援、疾病に対する医療と介護サービスの連携等）について、その解決に向

け、地域で暮らす・働く・活動する関係者で話し合う。

②実施回数

令和4年度上半期 25回（25センター各1回 うち書面開催4センター）

③主な参加者

民生・児童委員、町会・自治会、老人クラブ、訪問支援協力員、介護サービス事業所（ケアマネジャー含む）、医療機関、警察署、社会福祉協議会 等

④主な検討事例

ア 地域の居場所づくり関連

「自分の地域に居場所を作ろう」をテーマに、自宅に引きこもりがちになっている高齢者が社会との接点を持ち、地域の一員としての生活を取り戻すために、「集い場」を手段とする支援を参加者で検討

（主なご意見等）

- ・地域の歩きやすい場所マップを作る。（高齢者だけでなく障害者やベビーカーを押す親の為にもなる）
- ・休むところがないところに椅子やベンチを出し休憩場所を作る。見守りにもなるので良いと思う。
- ・ワンワンパトロール(犬の散歩をしながら地域の見守り)もよいと思う。
- ・男性は仕事と結びつけると良いかもしれない。その収益でベンチを作る等。
- ・老人クラブでは会館を使って集まっている。そこで周知活動を行ったり既存の集まりを活用しても良いのかもしれない。

イ 8050 関連

「8050～地域の方々のそれぞれの立場からできること～」をテーマに、8050 家族支援として、それぞれの立場から閉じこもり傾向にある方、その家族に対してどのような関わりが持てるかを検討

（主なご意見等）

- ・保健相談所からは、閉じこもり傾向にある息子への支援は日常の簡単な達成の積み重ねが大事であるという話が出た。
- ・若者サポートステーションからは、閉じこもり傾向にある方の社会参加として町会や自治会との連携と協力体制が必要であるという話が出た。
- ・アンケートをとった結果、地域住民から自治会が居場所として社会とのつながりを持つ意見や、見守りを基盤とした関わり、家族も含めた支援を意識したという意見が出た。

ウ 高齢者の権利擁護関連

「高齢者の権利擁護」をテーマに、いつまでも自分らしく安心して暮らし続けるために地域でできる支援について検討

（主なご意見等）

- ・地域とつながりを持って、よりよいサービスの提供やサポートをすることが大切。

小さな芽を見逃さないようにしていきたい。

- ・高齢者虐待は、家から外に出て行動をしてもらわないとなかなか解決は難しいと思う。その手助けをどうやってしていくかが課題。

エ 認知症の方への支援関連

「認知症の方がいきいきと生活できる地域づくり」をテーマに、地域での支援について検討

(主なご意見等)

- ・町会としても認知症の方をサポートできるように協力していきたいという声があった。
- ・介護保険事業者からは、介護保険サービスにつながる前の支援が必要なことがわかった、という声があった。

(2) 地域ケア予防会議

①目的

多職種協働により個別ケースを検討し、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントの実施を支援する。

②実施回数

令和4年度上半期実績 25回（一部書面開催）

③主な参加者

理学療法士、作業療法士、保健師、管理栄養士、歯科衛生士、主任介護支援専門員、地域包括支援センター

④主な検討事項

- ・コロナの自粛で引きこもりがちになった方の、外出意欲を引き出すためにどのような支援ができるか
- ・コロナで外出を控えてしまい下肢筋力の低下が顕著な方の、自立した生活を継続するための支援について
- ・やせ型で下肢筋力の低下がある方の、栄養面や口腔の課題への改善方法や栄養面や口腔の課題がある方の、効果的なリハビリ方法と体力作りの方法について
- ・理解力の低下や物忘れがみられる方の、生活リズムを整えるために必要な支援について
- ・右股関節術後の状態が安定されてきた方の、現在のサービス利用継続だけでなく、次の段階へつなげるための地域の社会資源等を活用した支援について

(3) 地域ケア個別会議

①目的

個別ケースの検討を通じて、高齢者の課題解決を支援するとともに、課題解決に向けた社会資源の把握や地域包括支援ネットワークの構築を図る。

②実施回数 ※25か所の地域包括支援センターで実施した数の合計

令和4年度上半期実績 132回（対面開催）

③主な参加者

本人、家族、地域住民、民生・児童委員、医師、医療機関相談員、担当の介護支援専門員、社会福祉協議会、司法書士、介護サービス事業所、障害サービス事業所、保健相談所、総合福祉事務所、生活支援員、地域包括支援センター 等

④主な検討事項

- ・ ご近所トラブルのリスクがある独居高齢者が、地域で孤立せず生活するために
- ・ 障害者サービスから介護保険サービスへのスムーズな移行について
- ・ 看取り期の方の在宅生活復帰へ向けた支援内容について
- ・ 金銭管理に支援が必要な身寄りのいない高齢者への支援について
- ・ 知的障害のある子供と、要介護で認知症の高齢者の二人世帯への支援について